

8304 「人生には言葉で表現できるものより・・・

「人生には言葉で表現できるものより、沈黙でしか表現できないものの中にこそ、より大切で、真実なものがあるんですねえ。それを察し合い、理解し合うのが、愛情というものなんでしょうが、しかし、難しいもんだなあ。」

言いながら谷口は、「山村が憎い」と言った先刻の明子の言葉を思い出した。

南部樹未子『碎かれた女』

[許容訳例]

“The most important and true things in life lies less in what words can express than in what only silence can express. To sense and understand this in each other is what is called love, I suppose. But how difficult it is!”

So saying, Taniguchi remembered Akiko’s recent words: “I hate Yamamura!”

[翻訳例]

“The really important, the really true things in life, it means, lie not so much in what you can express in words as in what you can express by silence. To sense and understand this in each other is what love is all about, I suppose--but it’s awfully difficult!”

As he spoke, Taniguchi recalled what Akiko had said earlier: “I hate Yamamura!”

■ 「人生には言葉で表現できるものより、沈黙でしか表現できないものの中にこそ、より大切で、真実なものがあるんですねえ。 (8304)

★ 「人生には」は in life でしょう。

● 「連体修飾節 + 不定代名詞的体言」(言葉で表現できるもの)

「言葉で表現できるもの」は「連体修飾節 (言葉で表現できる) + 不定代名詞的体言 (もの)」ですから、英語では「(代) 名詞 + 関係詞節」で対応します。ここは「もの」なので、英語では those that ですが、これは what で置き換えることができます。したがって、「言葉で表現できるもの」は what [those that] words can express とか、what [those that] you can express in words です。

● 「連体修飾節 + 不定代名詞的体言」(沈黙でしか表現できないもの)

「沈黙でしか表現できないもの」も、上と同様の「連体修飾節 (沈黙でしか表現できない) + 不定代名詞的体言 (もの)」ですから、英語では what [those that] only silence can express とか what [those that] you can only express by silence です。

◆ in words と by silence

上で、what you can express in words に対して what you can only express by silence としたのは、つまり in silence としなかったのは、非常に微妙なのですが、express in words の場合は、具体的に words があってその中に意味が含まれている、という感じで in を使うの

ですが、express by silence の場合は silence を一つの手段として扱うという感じで by を使うことになります。

★「・・・の中にある」は exist in…とか lie in…とかですが、これらを使わなくても簡単に are…でも意味は少しも変わらないと思います。

★「大切で真実なもの」は the really important (things), (and) the really true things (in life)でもいいです。日本文は「大切 [で] 真実なもの」と、「同時の [で]」が使われていて、英語では and で対応しますが、日本語の [で] で示された二つの緊密性を表すには and を省いた方がいいです。また、really は most に置き換えてかまいませんし、really も most も使わなくてもいいと思います。

●比較構文 (A より B の中に・・・)

「A より B の中に・・・」は三つの表し方があります。一つは rather than を使う形です。~ lie in what only silence can express rather than in what words can express となります。ただし、rather than を使うと、このように順序が逆になり line in B rather than in A となります。二つ目は less を使う形で、~ lie less in what words can express than in what only silence can express となります。三つ目は not so much ~ as…を使う方法で、~ lie not so much in what words can express as in what only silence can express です。これが三つの中では一番英語らしい言い方になると思います。ついでですが、二番目の in を省いて lie not so much in A as B とはしません。lie not so much in A as in B です。簡単な例で示すと、たとえば、ある人が長年教授になりたいと思っていてやっとなれたというような場合に He is interested not so much in the money as in the prestige. のように使います。

★「(・・・がある) んですねえ」は、自分の考えを相手に確認したいということではなく、以前に自分があるいは他の人が言ったことに対して納得・確認したことを詠嘆的に述べたものと思います。ですから、ここでは tag question は使えなくて、ここは it[that] means を使って文章の途中に挿入し The really important, the really true things in life, it [that] means, lie…としたり、あるいは、「つまり、(・・・ということがある) んですね」と解釈するなら文の初めに In short を置いて In short the really important, the really true things in life lie…とするか、のどちらかだろうと思います。

■それを察し合い、理解し合うのが、愛情というものなんでしょうが、しかし、難しいもんだなあ。(8304)」

★「それを察し合い」の「察する」は guess ではなく sense がいいでしょう。これは、sense somebody's feelings [anger] のように、何かカンでわかるというような場合に使います。たとえば、He sensed the other man's embarrassment and looked the other way. (彼は当惑するのを察して気がつかないふりをした) のようによく使う表現です。ここでの「それを察する」は sense this でしょう。

★「(それを) 理解し合う」の「(それを) 理解する」は understand this です。

★「(それを察し) 合い、(理解し) 合う」は、sense and understand in each other です。

each other は「(お) 互いに」と訳されるので副詞句のように誤解されますが、これは代名詞(e.g. They love each other. / They spoke words of love to each other.)ですから。ここ場合、前置詞が必要で in each other です。

● 「連体修飾節+不定代名詞的体言」(愛情というもの)

「愛情というもの」も上の二つと同様の「連体修飾節+不定代名詞的体言」で英語では what is called love と表現することができます。ただ、ここは他にもっと英語らしい言い方がいろいろ出来ると思います。たとえば、what (really) constitutes love という表現もできます。A is what constitutes B は「Aの中にこそ真のBがある〔AこそBである〕」という意味合いの表現です。これと対照的なのが consist で、これを使うと True love consists in sensing and understanding this in each other となります。また To sense and understand this in each other is what one means by (real) love [what is meant by (real) love] それから、これはちょっと colloquial な表現ですが what love is all about という表現も可能です。

● 「・・・というのが・・・」

「それを察し合い、理解し合うのが、愛情というものなんだ」は To-Inf… is …の構文で To sense and understand this in each other is…と書いて what is called love などを続けることができます。

★ 「・・・でしょう (が・・・)」は I suppose を挿入的に使えばいいでしょう。I guess でもかまわないと思いますが I think; I feel; I believe はちょっと強すぎると思います。

● [が、しかし]

「が、しかし」の「が」も「しかし」も「逆接」で、but ですが、ここの [が] は弱く、したがって改めて [しかし] と加えたものです。日本語と同じニュアンスを出すためにはダッシュを入れて but とつなぐといいと思います。

★ 「難しいもんだなあ」は how difficult it is! でもいいですが、唐突に直接話法の文が出てくるという違和感があります。--but it really is difficult! とか、but it's certainly [awfully] difficult! とした方がいいでしょう。

■ 言いながら谷口は、「山村が憎い」と言った先刻の明子の言葉を思い出した。(8304)

● [ながら]

「言いながら」は「そう言いながら」ですから As he spoke です。So saying は「そう言うと・・・」という感じになります。「言いながら」にはなりません。8303 でも [ながら] が出てきて、その時にも話題にしましたが…ing を使うと、動作が二つ続く感じにんるのです。

★ 「山村が憎い」は “I hate Yamamura!” でしょう。

● 「隠れ連体修飾節+不定代名詞的体言」(先刻の明子の言葉)

「先刻の明子の言葉」は「先刻明子が言った言葉 (=こと)」を短縮した日本語らしい表現です。英語では関係詞節を使って what Akiko had said earlier です。earlier は「それより先に；先ほど」の意味です。なお、ここは「・・・の言葉」をそのまま訳して Akiko's

recent words とすることもできますが、こういう場合、英語では what…say の形をとります。

★「思い出した」は remembered ではなく recalled の方がいいでしょう。remember には「覚えている」という意味もあり広いからです。